

平成22年9月吉日

青少年育成事業開催にあたって

(社) 鳥取青年会議所
未来への光委員会
委員長 西村 俊二

戦後の家庭や地域では、人と人が協力し合い助け合わなければ生活できなかったため、自然に顔と顔を向き合わせてコミュニケーションをとっていました。近年は物事が便利になり生活水準が上がり、地域の生活環境が整備されたことで、以前のように協力し合い助け合う必要性が少なくなり、自然にコミュニケーションの機会が減ってきました。そして今の親世代は便利になった生活環境で育っているため、日常生活での子供との関わり方が変化してきているのではないかと思います。心と心のコミュニケーションに気づいていないのではと思われまます。結果として、現代の子供達の人と人とのコミュニケーション能力はうまく機能しにくい状況となっているのではないのでしょうか。

私たち(社)鳥取青年会議所は青少年健全育成の理念のもと、多くの事業を地域の子供達に発信して参りました。近年では異年齢交流を通しておもしろい心の育成を行って参りましたが、本年は視点を変え、子供達の心の深い所まで語りかけることができるのはやはり親であると考え、押し付けるのではなく見守りのスタンスをとり、親子に自発的に行動していただきたいと考えています。親子間の絆を捉えた事業開催こそが、今後地域を担う子供達の健全育成に繋がるものと確信いたしました。いつの時代でも手本となるべきは大人であります。そこで、一番身近な大人である親と子の信頼関係の向上が必要不可欠であると考えました。

また、過去の事業を検証し、関わられた方々の多くの意見から浮き彫りになった問題点にしっかりと目を向け取り組むことで、より子供達の未来を見据えた事業が行えると考えます。

青少年育成事業を行うにあたり、現代の親の世代すら確かとは言えない親子間のコミュニケーションや絆を見つめなおしていただき、子供達には楽しみながら自分のものにしてもらい、普段の生活に活かしてもらうことが大切です。いくら良い事業に参加しても、家に帰り日常生活の中で活かされなければ、大きな効果が望めません。参加された親子が以前よりも楽しみながらコミュニケーションをとり、育み、そして絆が醸成されるような事業を開催したいと考えます。

ご理解ご協力よろしく願いいたします。